

Topics × Information

改正DV防止法と改正ストーカー規制法が成立

交際相手からのDV、連続メールもNO!

平成25年6月に「ドメスティック・バイオレンス(DV)防止法^{*1}」と「ストーカー規制法^{*2}」の改正が行われ、男女間の暴力やつきまといへの対策が強化されました。

DVには、殴る蹴るといった目に見える「身体的暴力」以外にも以下のようなものがあります。

- 精神的暴力 怒鳴る、脅す、携帯電話の着信をチェックする 等
- 社会的暴力 友達づきあいを制限する 等
- 経済的暴力 生活費を渡さない 等
- 性的暴力 性行為を強要する、避妊に協力しない 等

これらは、近親間で行われるため周囲が気づきにくく、エスカレートする傾向にあります。

暴力に悩んでいるのはあなただけではありません。まずはひとりで悩まずに、「女性の悩み電話相談」にお電話ください。

また、ストーカー行為に不安を覚えたら、被害が深刻になる前に迷わず最寄りの警察署に相談してください。

*1 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律
*2 ストーカー行為等の規制等に関する法律



「女性に対する暴力をなくす運動」



毎年11/12～11/25(女性に対する暴力撤廃国際日)までの2週間は「女性に対する暴力をなくす運動」の実施期間です。

改正法のポイント

✓DV防止法

- 配偶者等からだけでなく、同居する交際相手からの暴力についても保護の対象とする

✓ストーカー規制法

- 連続メール送信をつきまといとして取り締まりの対象に追加 等

【女性の悩み電話相談】

自分のこと、家庭のこと、職場のこと、DVなど…ひとりで悩まず相談してください。

パートナーシップさいたま

048-643-5813

月～金曜日 10:00～20:00

土・日・祝日 10:00～16:00

(※第4日曜日、年末年始を除く)

秘密厳守! 相談無料!

男性の悩み電話相談を実施しています!

男女共同参画推進センター(愛称:パートナーシップさいたま)では、男性臨床心理士による電話相談を実施しています。日常生活で感じるストレスをうまく解消できない人、相談相手がいない人は増加しており、特に男性は悩みをひとりで抱え込んでしまう傾向があります。辛さを感じたらひとりで悩まず、ぜひご相談ください。

「男だからひとりで解決しなくてはいけない」と思い込んでいませんか?



【相談専用ダイヤル】

自分の事、家族のこと、人間関係などについて、ひとりで悩まずに相談してください

048-643-5805

第2・第4火曜日 18:30～20:30

(※祝日、年末年始を除く)

秘密厳守! 相談無料!

多忙ですが家族との時間を大切にしています

ⅢⅢよりよいチームワークのために

1996年にスペースシャトル「エンデバー」に搭乗以来、3度の宇宙飛行を経験した若田光一さん。今年の11月以降には、ロシアの宇宙船「ソユーズ」で4度目の宇宙飛行に飛び立ちます。今回約半年間の宇宙滞在の後半に若田さんが務めるのは、国際宇宙ステーション(ISS)での船長という

ⅢⅢ家族との時間を大切に

訓練や宇宙滞在などで長期にわたって家を空けることも多い若田さん。だからこそ家族との時間を大切にしています。「親はどんなに子どものことを思っているか、その思いはなかなか伝わらないもの。その一方で、子どもは親がしてくれたことははっきり覚えていま



若田光一さん

PROFILE

1963年さいたま市(旧大宮市)生まれ。九州大学卒業後、日本航空に入社。平成4年宇宙飛行士に選ばれ、宇宙開発事業団(現JAXA)職員に。1996年のスペースシャトル「エンデバー」を皮切りに、これまで3度宇宙飛行ミッションを実施。今年の11月に4度目の宇宙飛行でISSの船長に。

大役。多国籍の宇宙飛行士を指揮する立場です。「ミッションを成功させるには、チームワークが不可欠。文化や習慣の差を超えて、いかに互いの信頼感を高められるかがカギです。ISSに滞在中、クルーはシステム運用や実験に没頭することになりますが、食事の時はみんなでテーブルを囲んでコミュニケーションを図りたい。その上で、クルー一人一人の能力を最大限引き出してあげれば」と意気込みを語ります。宇宙飛行士は高い能力・資質が求められますが、男女の分け隔てはありません。これまでも多くの女性飛行士と共に仕事をしてきましたが、男だから、女だからと意識することはありませんでした。女性が力を発揮できる環境が整っています」と話します。

す。だから、家にいる間は、一緒にスポーツをしたり、料理を作ったり、一緒に過ごす時間を大切にしています。海外出張時には、TVチャットを利用して、お子さんの勉強を見る時もあるそうです。

ⅢⅢこれからの夢は

これからの夢をお聞きすると、「外国には60歳以上の宇宙飛行士もいますから、自分も現役を続けながら、これまでの経験を生かして、日本の有人宇宙開発に貢献していきたい。いつの日か種子島から、日本の有人宇宙船を打ち上げたいと語る若田さん。

今年、50歳になりましたが、宇宙飛行士としてまだまだ通過点のよう。若田さんのこれからの活躍に、ますます目が離せそうありません。



本誌のタイトル文字を書いていただきました

夢

日本の子どもたちの(夢)でもある若田さん。熱く、説きまなざしでご自身の(夢)を語ってくださいました。